

2011 年度短期派遣 EUROPA 派遣報告書

平成 24 年 8 月 21 日

説田英香

【研究課題】 ドイツ連邦共和国における外国人政策: 1973-1985

【派遣先】 フライブルク大学 (ドイツ)

【派遣期間】 平成 23 年 9 月 21 日～平成 24 年 8 月 21 日

【派遣の概要】

派遣期間中には、戦後ドイツの外国人政策史を専門とするウルリッヒ・ヘルベルト教授のもとで、博士論文執筆のための指導を受けながら、文書館での史料収集を行った。報告者は、東京外国語大学とフライブルク大学での共同学位取得(博士号)を最終目標としている。派遣開始から2月までの期間は、文書館での史料収集に向けての準備を行った。具体的には、問題提起の明確化、文書館所蔵史料の調査、そして文書館訪問手続きが主であった。そして、2～3月と4～5月の間に、それぞれ4週間に及ぶ史料収集をコブレンツの連邦文書館(Bundesarchiv Koblenz)にて行った。当文書館では、外国人統合政策と帰国促進政策に関する、連邦労働省、労働庁そして内務省の史料を閲覧した。初めての文書館調査であったため、細かな事象ではなく、外国人政策の全体像が把握できるような史料を中心に調査を行った。具体的には委員会や会議の議事録、各省庁内や省庁間でのまとまった報告書が中心となった。1982～85年の史料はまだ公開されておらず、特別な申請が必要となる為、まずは閲覧がすぐに可能であった、1973～1981年の史料を調べた。第一回目の調査後、調査結果を元に、1982～85年の史料の閲覧許可を求める申請手続きを、連邦文書館と各省庁に対して行った。1982年の史料については比較的早く閲覧許可が下りたため、すでに第二回目の訪問の際に閲覧する事ができた。それ以外の史料についての閲覧許可は8月に下りたものの、日程的に、本派遣期間中に閲覧することはできなかった。それらは、10月に計画している連邦文書館訪問の際に閲覧する。また、8月にはベルリンにある外務省の文書館にて(Auswärtiges Amt-Politisches Archiv)、3週間の史料収集を行った。当文書館でも、閲覧が可能とされている1973～1981年までの外国人政策に関する史料を閲覧した。更に、ベルリン滞在期間中に、連邦大統領府(Bundespräsidialamt)で統合政策に関する史料の閲覧を行った。文書館訪問を行っていない期間には、各文書館で収集した史料の整理と分析を行った。また、7月にはヘルベルト研究室のワークショップが行われ、30分の研究報告を行った。報告の内容は、文書館調査の報告と、文書館調査を基に、新たに設定し直した問題提起の紹介が中心となった。

【成果】

コブレンツの連邦文書館には、外国人政策に関わる史料が多く所蔵されており、内容的にまとまりのある史料を収集する事ができた。同文書館では複写を行う場合、申請が必要となり、複写史料が手元に届くまで一ヶ月以上の時間がかかる。従って、まだ一部の史料を受け取っていない状態であり、全ての史料の分析ができておらず、現段階では先行研究以上の結果を得る事ができていない。反面、外務省の文書館で

は、外国人（労働者）政策および外国人労働者とその家族の実態に対する、募集国政府やメディアの反応を知る事が出来る史料を見つける事ができた。外務省文書館調査の終了とともに、本派遣も終了したため、それらの史料の読み込みは今後の課題となる。

【今後の課題】

派遣者は2012年9月12日以降、2012年度 ITP-EUROPA 派遣の下、フライブルク大学を拠点とし、再び各文書館での史料収集を行う。すでに上記したように、10月にはコブレンツ連邦文書館にて、1983～85年の史料を閲覧する予定である。これらには、先行研究ではまだ扱われていない、「帰国促進政策」に関する史料も含まれており、新たな結果が期待される。11月末にはヒルデスハイム大学での報告会を控えているので、11月はその準備期間に充てたい。2013年1月以降に外務省文書館での史料収集を2度行う予定であり、さらに、労働組合とトルコ移民に関する史料収集を行うために、ボンとケルンの文書館訪問も希望している。2013年には、博士論文の本文執筆に着手するつもりであるため、2012年12月末日までにはこれまでに収集した史料の分析とまとめを全て終えたい。

以上